

はままつ文化サポート対象事業

実施団体名	みらいネット浜松		
事業名	南信州今田人形公演		
実施年月日	平成 26 年 3 月 2 日（日）		
実施場所	space-K	実施回数	1 日間 1 回
入場料	全席自由：500 円		
事業内容	1-13 三遠南信地域では古くから人形浄瑠璃、冬至祭、田楽、念仏踊り、歌舞伎などの郷土芸能が盛んな地域で、全国的に見ても貴重な地域である。特に人形浄瑠璃は南信州飯田を中心に約 30 ヶ所で操られていたとみられ、今田人形、黒田人形、早稲田人形、古田人形が現在でも上演活動を行っています。 人形浄瑠璃は太夫、三味線、人形遣いの三業で演じられます。舞台上手の床で太棹の三味線にのって義太夫節が語られ、黒衣を着た三人の人形遣いに支えられ人形が動きます。今回の事業では今田人形を K-M I X スタジオ「space-K」で上演します。 今田人形は約 300 年前の宝永元年から始まり、かしら数も 94 で黒田人形の 105 かしらに次いで南信州では 2 番目の規模になっています。5 月の飯田人形劇フェスティバル、10 月の大宮神社秋の例大祭、などに出演している他、日本のみならず海外での公演も行っています。また、夏にはアメリカのミズーリ大学の学生が研修に訪れることもあります。今田人形座は浄瑠璃三大傑作の一つである「菅原伝授手習鑑」や近松門左衛門の原作を改作した「傾城阿波鳴門」など 12 外題を現在演じていますが、今回はその中から「寿式三番叟」、「戎舞」、「傾城阿波鳴門」を上演します。どの出し物もリアルで、細やかな技が心の琴線に触れる世界を描き出していると国内外で評価を博しています。		
波及効果	今田人形は 300 年の伝統ある郷土芸能ですが、その歴史の中で何度か消滅する危機がありました。しかし、地元住民の郷土愛と今田人形に対する愛着がこの危機を救い現在に至っています。現在では地元住民は積極的に今田人形を支援し、地元の活性化にも役立っています。浜松市でも存続の危機にある郷土芸能があると聞いていますが、今田人形をお手本にして今の危機から脱出して欲しいと思います。郷土芸能をはじめとする文化やモノづくりの技術も地元住民の理解、協力なくしては存続は難しく、そういう意味でもこのイベントを通して巧の技の継続に少しでも役に立てることができればと考えています。		
事業費総額	566000		
助成金額	300000		